

事務局 日本デザイン専門学校 金子武志
〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷 5-7-3
TEL03-3356-1501 E-mail kaneko@ndc.ac.jp
デザイン学会 教育部会 URL <http://jssd.jp/modules/tinyd5/index.php?id=51>

デザイン教育研究会のおしらせ 2014_1

今年度の研究会の共通テーマは「まなびのかたち、おしえのかたち」です。

デザインの分野に限らず、時代とともに学生の気質も変わり、社会のニーズに即応しながら教育現場の考え方や授業の内容、スタイルも色々変わってまいりました。

また、幼稚園～大学の教育機関に限らず、地域のコミュニティー、美術館でのアートプロジェクト、ネットを利用した通信講座など、学びの場や方法は多様化しています。そこには時代とともに変わっていくかたちと、いつまでも変わらない何か、がありそうです。皆さんと有意義な時間を共有できればと思います。

テーマ 「まなびのかたち、おしえのかたち」

発表者 細谷 誠 (日本大学芸術学部デザイン学科 准教授)

日時 2014年7月11日(金) 18:00～20:00

会場 日本大学芸術学部 江古田校舎西棟1階 共同アトリエ

「まなびのかたち、おしえのかたち」のテーマのもと、美大デザイン学科の現在、特に「ものづくり」に関わる状況について共有することを目的としたいと思います。

デジタル・ファブリケーション、パーソナル・ファブリケーション、ソーシャル・ファブリケーション…、FabLab や Makerムーブメントの台頭や、町工場における「ものづくり」の新しい動きに象徴されるように、エンジニアリングやマニュファクチャリングのシーンは社会的な革新に進んでいます。

近代以降の「ものづくり」は設計と製造に分離され、その前者の領域とされてきた「デザイン」にも、その再考が求められて久しく、「デザイン」自体の本質的な革新が喫緊の課題となっている状況です。「デザインの再考」は生活におけるひとつの本質—人間にとって本質的に必要なものを自分たちでつくる—をあらためて考えることから始まるのではないのでしょうか。

こうした社会的革新を考える領域として、「デザイン教育」ひ

いては広義の教育の役割を浮かび上がらせる必要があります。革新に対応する普通教育、それらを先導するデザイン専門教育、そして、そのプラットフォームとしての新しいまなびの場の構築が目標となります。こうした文脈で「まなびのかたち、おしえのかたち」を考える機会としたいと思います。

その題材として、日本大学芸術学部デザイン学科インタラクティブデザイン分野の活動を紹介します。2012年度の学科カリキュラムの刷新から3年目を迎え、専門教育として本格的に始動し、新しいデザイン教育の実験に取り組んでいます。ワークショップなどの新しい「まなびのかたち、おしえのかたち」自体を考える「アートと教育」の授業。観察・共感・本質から導かれるデザインや新しいデザインプロセスを実践する「インタラクティブデザイン」の授業。さらには授業外のプロジェクト(ネットワーク配信による「ものづくり」授業の運営など)も含め、新しいデザイン教育の実験の現在を纏めます。

細谷 誠 (ほそやまこと)

慶應義塾大学環境情報学部卒業。岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー (IAMAS) アートアンドメディア・ラボ科卒業。横浜国立大学大学院教育学研究科芸術系教育専攻美術教育分野(メディア芸術教育分野)修了。東京藝術大学大学美術館美術情報研究室学芸研究員などを経て、2009年、日本大学芸術学部デザイン学科専任講師着任。2012年、同准教授。専門はインタラクティブデザイン、デザイン教育研究。共編・執筆『パウハウス・デッサウ展』(産経新聞社、2008年)など。

【会場へのアクセス】 会場が前回と異なります。ご注意ください。

日本大学芸術学部 江古田校舎 〒176-8525 東京都練馬区旭丘 2-42-1

<http://www.art.nihon-u.ac.jp/access/>

西武池袋線各駅停車にて江古田駅下車 北口より徒歩1分

都営大江戸線 新江古田駅下車 徒歩約12分

関東バス JR中野駅～江古田駅(10分間隔で運行) 乗車時間15～20分

問合せ 日本デザイン専門学校 金子武志(教育部会・主査)

TEL03-3356-1501 E-mail kaneko@ndc.ac.jp